

はじめに

本調査は、当金庫のお取引先のご協力により昭和50年7月から実施しているものです。四半期ごとに調査を行い、D.I.を中心として分析を行っています。

なお、当金庫では6種類の一般業種のほか、地域金融機関として地場産業に重点を置いた調査を行い、次の8業種を選定しております。

- ① 縫製業
- ② 電子部品・半導体製造業
- ③ 漆器業
- ④ 木材業
- ⑤ 建具業
- ⑥ 織布業
- ⑦ 繊維・雑品業
- ⑧ 観光業

今回の調査は、令和3年10月～12月期の業況実績と、令和4年1月～3月期の見通しについて、管内678先の事業所を対象に実施いたしました。

些かなりとも経営のお役に立てていただければ幸いです。

※D.I. (Diffusion Index) 拡張指数

不変部分を除いて増加（上昇）したとする企業と、減少（下降）したとする企業の全体に占める構成比のどちらの力が強いかを比べて、時系列的に景気のベクトルの傾向を見る方法です。

**** 目次 ****

1. 概況	1
2. 地区内の業況D.I. 推移	2
3. 一般業種の業況	
(1) 製造業	3
(2) 卸売業	4
(3) 小売業	5
(4) サービス業	6
(5) 建設業	7
(6) 不動産業	8
4. 地場産業の業況	
(1) 能登地区の縫製業	9
(2) 能登地区の電子部品 ・半導体製造業	10
(3) 能登地区の漆器業	11
(4) 能登地区の木材業	12
(5) 能登地区の建具業	13
(6) 能登地区の織布業	14
(7) 能登地区の繊維・雑品業	15
(8) 能登地区の観光業	16
5. 経済指標	17～18
6. 特別調査	
2022年（令和4年）の経営見通し	19

（注）令和3年10月～12月を今期、令和3年7月～9月を前期、令和4年1月～3月を来期という、以下同じ。

調査対象企業の業種別先数および有効回答数

	依頼先	有効回答数	回答率 (%)	構成比 (%)
製 造 業	203	194	95.6	30.5
卸 売 業	29	28	96.6	4.4
小 売 業	200	184	92.0	28.9
サービス業	120	115	95.8	18.1
建 設 業	97	88	90.7	13.8
不 動 産 業	29	27	93.1	4.3
合 計	678	636	93.9	100.0

◆◆◆ 概 況 ◆◆◆

《 2021 年 10 月～12 月》

令和 3 年 1 2 月からワクチンの効果を高め、持続させるための追加接種である 3 回目のコロナウイルスワクチン接種「ブースター接種」が医療従事者を対象に始まった。令和 4 年 1 月から高齢者を中心とした一般に対象が拡大され、3 月からは職場接種が開始される見通しとなっている。しかしデルタ株の後に発生した、より感染力の強いオミクロン株が従来のウイルスに置き換わってきており、1 2 月第四週から第五週にかけて、アメリカ、イギリス、フランス、イタリアなどでは感染者数が倍増している。日本でも第六波の発生及び感染爆発が危惧されることから、1 1 月 2 9 日付で「水際対策強化に係る新たな措置」として、1 1 月 3 0 日以降の外国人の新規入国は認めない対策を講じた。

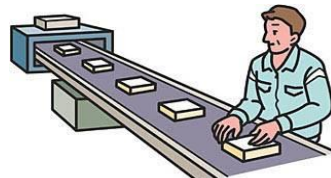
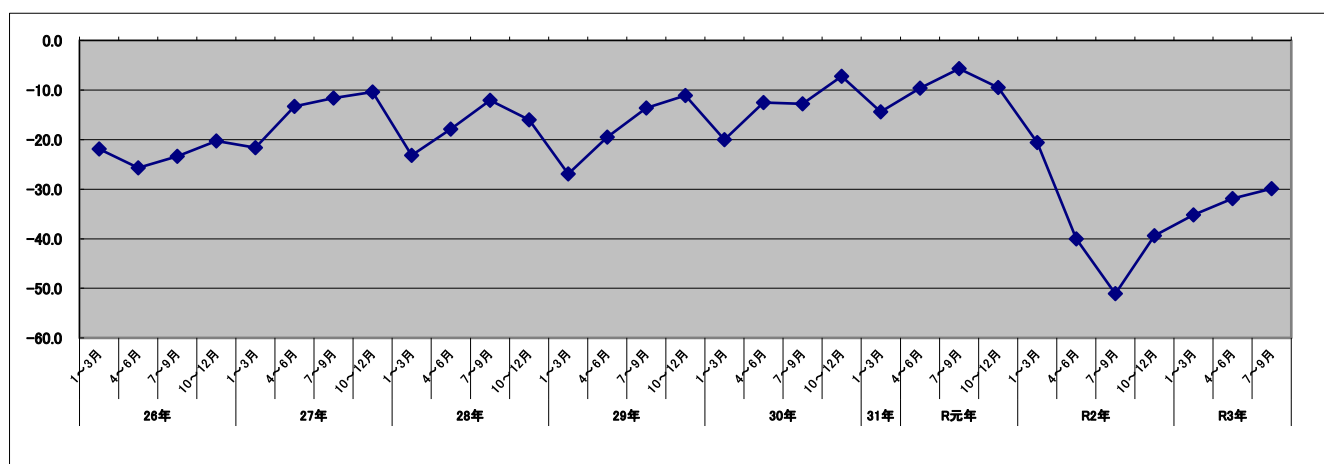
こうした中で、当金庫営業地区の今期（令和 3 年 1 0 月～1 2 月）業況 D.I. は、△ 1 6. 4（前期△ 2 9. 9）と 1 3. 5 ポイント改善し、地区内全般では全業種において改善を示した。人流は多少戻り、地場産業では縫製業、繊維・雑品業が回復基調を維持し、観光業も前期に続き改善した。漆器業、建具業は改善し、織布業はやや悪化。半導体の供給不足で、電化製品・電波基地局・自動車の供給の遅れや停止が続いていることから電子部品・半導体製造業は悪化。ウッドショックの影響が続く木材業も悪化した。

中でもウッドショックの影響が顕著で、コロナの流行で在宅ワークなどが定着したことにより、都心部から郊外へと住居を移す人が増え、郊外での住宅新築需要が高まる動きが世界的に増加した。その結果、カナダ産の木材はアメリカへ流れ、ロシア産の木材は中国へ流れることになり、急激な需要の増加により外材の価格が高騰し、日本への輸入量が激減した。それが原因で元々資源量の少ない国内の木材価格も高騰し、住宅建設等にかかる費用が大幅に上昇している。新築住宅需要は高まったが、従来よりも費用が嵩むため実際に家を建てられないケースが出てきており、コロナ禍以前と比較して倍ほどの費用となるケースもある。現在、外材の価格が下がる目処は立っておらず、そのため建設業の一般住宅建築部門では非常に厳しい状況が続いており、今後家電の消費が下がるなど連鎖的に他業種へ影響が出てくることも危惧される。

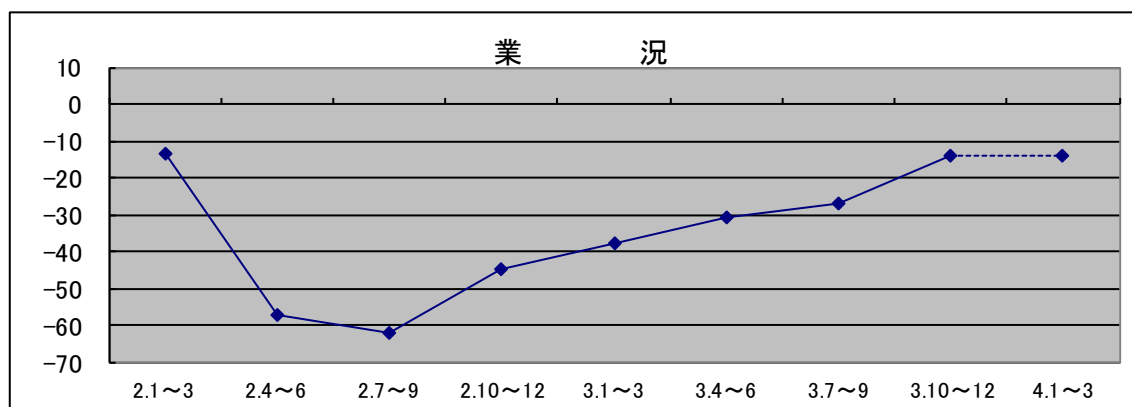
厚生労働省からは「With コロナ」を掲げた新しい生活様式の実践例が公表されている。「手洗い、咳エチケット等の感染対策」、「『3つの密』の回避」、「人との接触を 8 割減らす 10 のポイント（ビデオ通話でオンライン帰省、飲食は持ち帰り・宅配、仕事は在宅勤務、会話はマスクを着けて、等）」とともに活用してほしいとの案内があり、コロナウイルスが身近にある生活を考えることが求められている。数度の感染拡大の波を越えてきたが、回を追う毎に企業の体力も奪われ、状況は厳しさを増してきている。コロナウイルスの感染拡大防止を念頭に置きながらも経済を止めることなく、それぞれの業種が生き残られるよう助け合える、異業種間で縦横無尽に繋がる新しい産業構造の構築と、国の十分なバックアップが必要である。

地区内の業況D. I. 推移

年	期間	業況D. I.	年	期間	業況D. I.
H26年	1～3月	△ 21.9	H30年	1～3月	△ 20.0
	4～6月	△ 25.7		4～6月	△ 12.5
	7～9月	△ 23.4		7～9月	△ 12.8
	10～12月	△ 20.3		10～12月	△ 7.2
H27年	1～3月	△ 21.6	H31年	1～3月	△ 14.4
	4～6月	△ 13.3		4～6月	△ 9.6
	7～9月	△ 11.6		7～9月	△ 5.7
	10～12月	△ 10.4		10～12月	△ 9.5
H28年	1～3月	△ 23.2	R2年	1～3月	△ 20.6
	4～6月	△ 17.9		4～6月	△ 40.0
	7～9月	△ 12.1		7～9月	△ 51.1
	10～12月	△ 16.0		10～12月	△ 39.4
H29年	1～3月	△ 26.9	R3年	1～3月	△ 35.2
	4～6月	△ 19.5		4～6月	△ 31.9
	7～9月	△ 13.6		7～9月	△ 29.9
	10～12月	△ 11.1		10～12月	△ 16.4



製造業



【概 況】

今期（R 3.1 0月～1 2月）の業況D.I.は前期より持ち直し、△13.9（前期△26.8）となった。売上について改善したとの回答が増えたが、収益はやや改善するに留まっており、材料価格の高騰が影響している。業況・売上・収益・人手は改善しているが、コロナ以前の水準にはまだ遠い。業況が悪化したと回答した業種には捻糸、漆器、和菓子など様々な業種があり、地域性による部分はあるものの、明らかな偏りはなく、全体的に徐々に改善していくと思われる。しかし景気が好転する時期が未定で、先行き不透明であることから設備投資を見合わせている企業が多い。

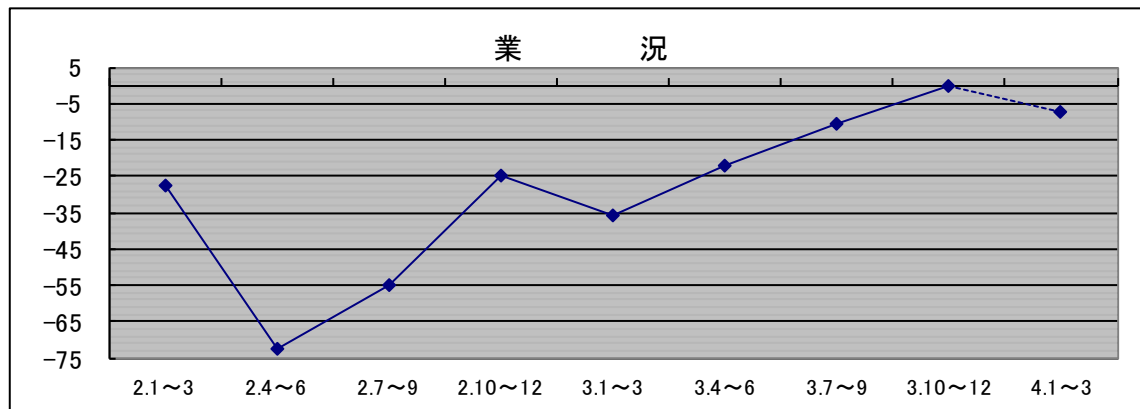
来期（R 4.1 月～3 月）の業況D.I.は△13.9と横這いを予測している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年				令和3年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△13.7	△57.4	△62.1	△44.8	△37.7	△31.0	△26.8	△13.9	△13.9
売 上	△15.8	△61.6	△40.5	△18.8	△38.2	△29.4	△19.5	△3.1	△3.1
収 益	△16.3	△59.5	△38.9	△20.8	△38.7	△28.9	△13.7	△10.8	△5.7
資金繰り	△8.4	△37.4	△19.5	△14.6	△13.6	△15.5	△7.9	△10.3	△7.2
人 手	△6.8	△2.1	1.6	△2.6	△3.7	△3.2	△3.2	△2.6	△2.6
設 備	△3.7	△5.3	△4.7	△2.1	△2.6	1.1	△2.6	△3.1	△2.1

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	17.9%	提携先を見つける	34.7%
同業者間の競争の激化	13.3%	経費を節減する	19.2%
原材料料高	13.3%	販路を広げる	18.6%

卸売業



【概 況】

今期（R 3.1 0月～1 2月）業況D.I.は年末の消費意欲が高まる要因により、0. 0（前期△1 0. 7）と改善した。個人消費は昨年より改善傾向にある。

建材、建設資材や青果物は前期に比べて需要があり、食料品、贈答品、漆塗り製品などは消費低下が続き、厳しい状況が続いているとの回答、卸売業の約半数は横這いとの回答であり、卸売業の中でも取扱商品によって業況に差がある。

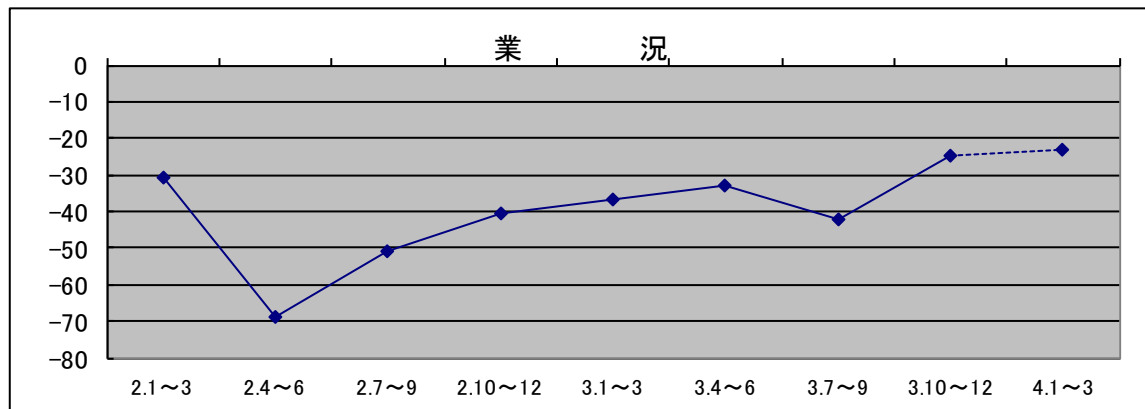
来期（R 4.1 月～3 月）の卸売業全体の見通しは、昨年と同じく年末年始の需要の反動から△7. 1と悪化し、売上・収益・在庫も悪化する状況を予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年				令和3年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△27.6	△72.4	△55.2	△25.0	△35.7	△22.2	△10.7	0.0	△7.1
売 上	△27.6	△65.5	△51.7	△17.9	△53.6	△25.9	△21.4	△3.6	△7.1
収 益	△27.6	△65.5	△48.3	△14.3	△50.0	△18.5	△25.0	△7.1	△14.3
仕入価格	6.9	0.0	△3.4	0.0	△14.3	11.1	21.4	25.0	25.0
在 庫	0.0	△3.4	△6.9	△10.7	△3.6	△3.7	△14.3	△7.1	△14.3
資金繰り	△6.9	△51.7	△24.1	△21.4	△21.4	△22.2	△14.3	△3.6	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	12.7%	提携先を見つける	25.5%
取引先の減少	12.7%	経費を節減する	18.2%
合理化の不足	10.9%	販路を広げる	18.2%

小売業



【概 況】

今期（R 3.1 0月～1 2月）の業況D.I.は△24.5（前期△42.2）と前期の見通し予想（△49.5）以上の改善を示した。クリスマス需要や年末年始の需要があったことで業況は改善されてきているとの回答が多かったが、それでもコロナ禍以前の水準には届かなかった。

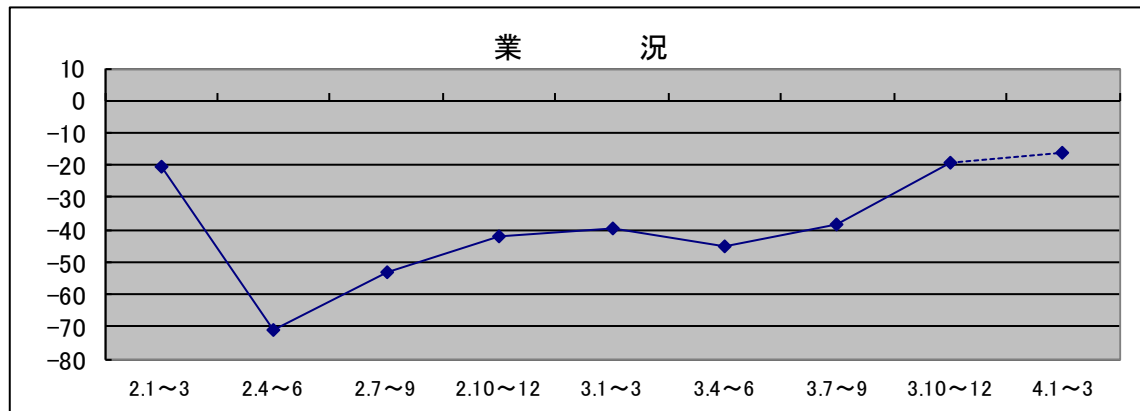
来期（R 4.1 月～3 月）業況D.I.については△23.4とやや改善を予想。他項目に於いても多少の増減はあるが、ほぼ横這いの予想。オミクロン株の感染拡大があれば再び影響を受ける不安があり、楽観はできない状況である。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年				令和3年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△30.5	△69.1	△51.1	△40.8	△36.7	△33.1	△42.2	△24.5	△23.4
売 上	△27.8	△63.9	△25.5	△30.4	△36.2	△30.9	△34.4	△14.7	△16.3
収 益	△27.3	△63.9	△23.4	△29.9	△34.0	△29.8	△34.4	△14.7	△17.9
販売価格	△4.3	△9.9	△0.5	△7.6	△2.1	△2.2	△2.8	7.6	3.8
在 庫	4.3	3.7	1.6	△4.3	0.5	0.0	△0.6	1.6	△1.6
資金繰り	△14.4	△25.1	△12.0	△8.7	△11.2	△12.9	△12.8	△13.0	△12.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	18.8%	仕入先を開拓・選別する	30.2%
地価の高騰	15.7%	経費を節減する	23.3%
商圈人口の減少	13.5%	宣伝・広告を強化する	11.8%

サービス業



【概 況】

今期（R 3.1 0～1 2月）業況D.I.は△19. 1（前期△38. 1）と改善を示した。

感染対策を徹底した上で開催するイベントも少しずつ増え、県内外から観光客も徐々に増えて来ている。その中で売上・収益・資金繰りは改善しており、特に料金価格についてはプラスに転じた。しかしながらコロナ禍以前に比べると感染拡大防止のため大多数の行事や催事の中止・自粛は続いており、業況は芳しくない。コロナの第五波が沈静化してきているが、新たな変異種オミクロン株の発生が確認され、今後感染拡大が懸念されるなど不安要素は残る。

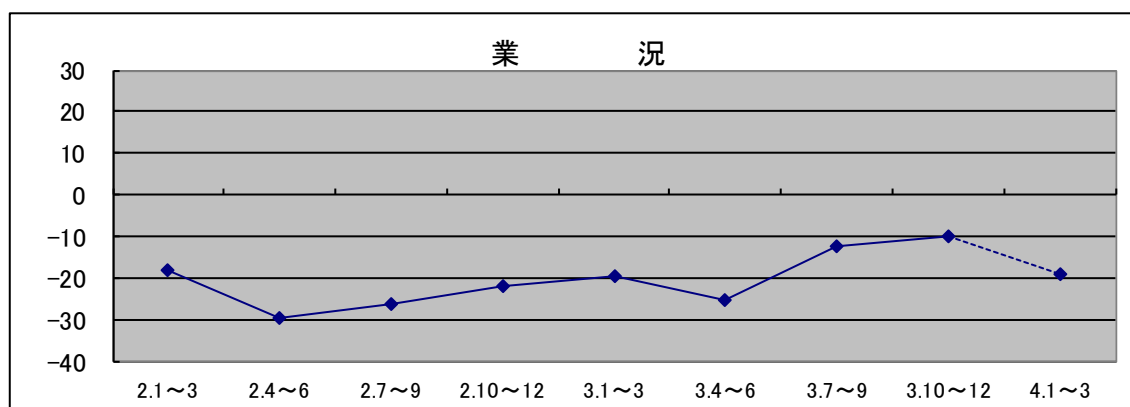
来期（R 4.1 月～3 月）業況D.I.は△16. 5とやや改善を予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年				令和3年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△20.5	△71.2	△53.4	△42.1	△39.8	△45.1	△38.1	△19.1	△16.5
売 上	△23.9	△70.3	△35.3	△32.5	△31.9	△46.0	△32.7	△1.7	0.0
収 益	△23.9	△68.5	△34.5	△31.6	△31.0	△41.6	△31.0	△2.6	0.9
料金価格	1.7	△6.3	△1.7	△7.9	△3.5	△3.5	△8.8	0.9	0.9
資金繰り	△16.2	△39.6	△20.7	△17.5	△17.7	△14.2	△21.2	△10.4	△12.2
設 備	△3.4	△1.8	△1.7	△1.8	△5.3	△1.8	△3.5	△5.2	△4.3

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	19.6%	提携先を見つける	35.2%
売上の停滞・減少	17.5%	経費を節減する	21.2%
同業者間の競争の激化	14.4%	販路を広げる	15.5%

建設業



【概 況】

前回において今期（R 3.1 0 月～1 2 月）の業況D.I.は悪化するとの予想をしたが、前期に続いて公共工事等に動きがあったことで△10.2（前期△12.5）と引き続き改善を示した。しかしウッドショックによる木材価格の高騰などの影響により民間工事や一般住宅の建設は低調であり、売上・収益は悪化した。経営上の問題点は前回と順位は変わらず。状況は変わっていない。

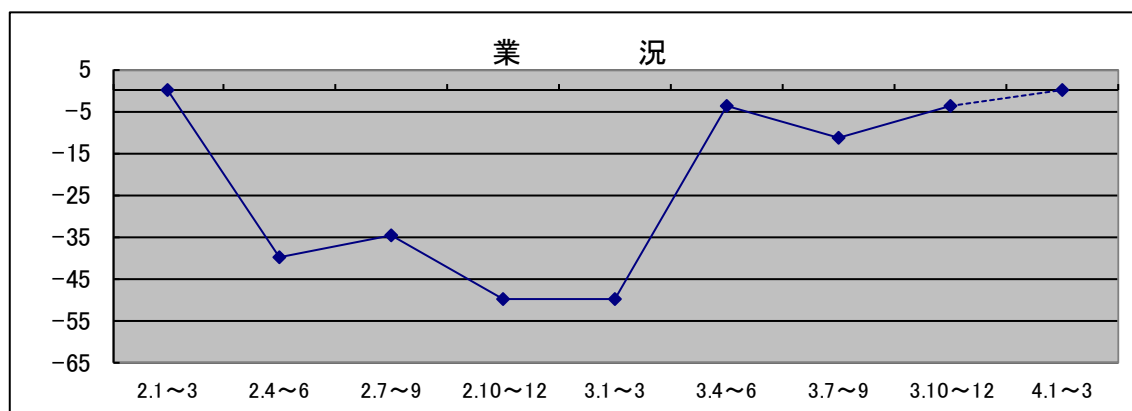
来期（R 4.1 月～3 月）の業況D.I.は△19.3と悪化を予想、人手以外の項目については横這いか悪化を予想しており、厳しい状況が続くとみている。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年				令和3年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△18.2	△29.9	△26.5	△22.1	△19.8	△25.3	△12.5	△10.2	△19.3
売 上	△20.5	△46.0	△15.7	△16.3	△22.1	△19.5	△6.8	△12.5	△17.0
収 益	△11.4	△43.7	△10.8	△10.5	△12.8	△13.8	△6.8	△12.5	△19.3
請負価格	△4.5	△19.5	△3.6	△9.3	△7.0	△12.6	△5.7	△2.3	△2.3
資金繰り	△13.6	△24.1	△6.0	△10.5	△15.1	△10.3	△9.1	△8.0	△12.5
人 手	△12.5	△11.5	△7.2	△12.8	△14.0	△6.9	△8.0	△8.0	△6.8

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
人件費以外の経費の増加	16.0%	技術力を高める	30.0%
売上の停滞・減少	11.9%	経費を節減する	22.0%
合理化の不足	11.5%	販路を広げる	12.1%

不動産業



【概 況】

今期（R 3.1 0月～1 2月）の業況D.I.は△3.8（前期△11.5）と改善を示した。全ての項目が改善か横這いであり、回復傾向にあるといえる。しかし戸建ての新築物件などに関しては、価格高騰の中で売れ行きは不調であり、楽観視はできない。

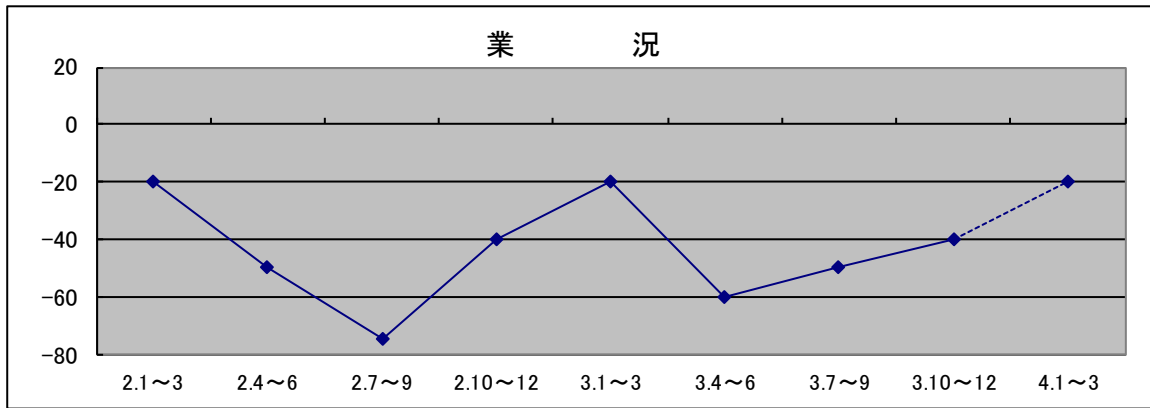
来期（R 4.1 月～3 月）は年度の変わり目であり、入学や新社会人などの人の移動があることから更に改善し、業況D.I.は0.0の予想となっている。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年				令和3年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	0.0	△40.0	△34.6	△50.0	△36.0	△4.0	△11.5	△3.8	0.0
売 上	3.8	△36.0	△34.6	△34.6	△36.0	△4.0	△19.2	△11.5	0.0
収 益	3.8	△36.0	△34.6	△34.6	△36.0	△8.0	△7.7	△7.7	3.8
販売価格	3.8	△4.0	△19.2	△7.7	△16.0	△8.0	△3.8	0.0	15.4
在 庫	0.0	△8.0	△3.8	△3.8	△4.0	△16.0	△7.7	0.0	3.8
資金繰り	△7.7	△24.0	△7.7	△19.2	△16.0	△12.0	△7.7	△3.8	7.7

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	57.1%	提携先を見つける	20.0%
売上の停滞・減少	33.3%	販路を広げる	15.4%
利幅の縮小	19.0%	宣伝・広告を強化する	15.4%

能登地区の縫製業



【概 況】

今期（R 3.10月～12月）の業況D.I.は例年ほどではないが、繁忙期であることが後押しして△40.0と前期（R 2.7月～9月）の△50.0より改善した。しかし予測していたよりも販売が伸びなかったためか、他の項目については軒並み悪化した。業況は多少落ち着いてきているが、全体的に好転するには至っていない。

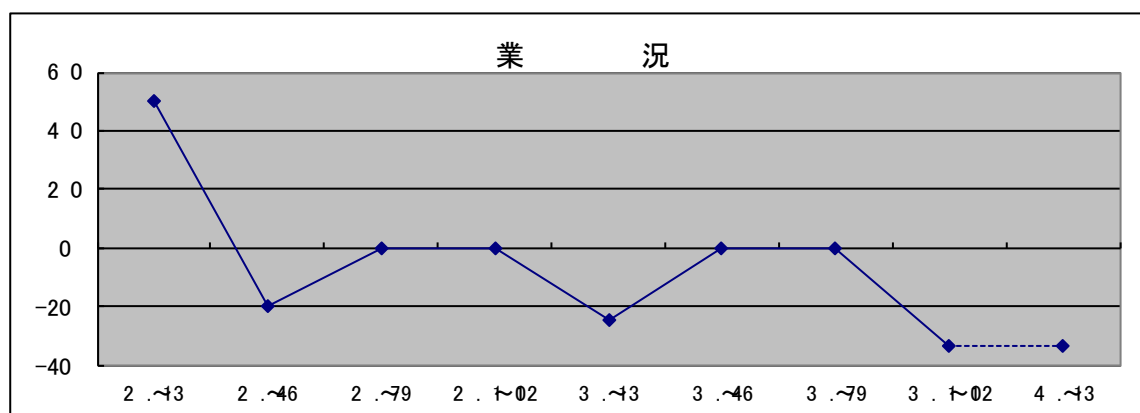
来期（R 4.1月～3月）はコロナウイルスの第五波が沈静化に向かっている中で、全ての項目において改善か横這いを見通している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年				令和3年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△20.0	△50.0	△75.0	△40.0	△20.0	△60.0	△50.0	△40.0	△20.0
売 上	△20.0	△75.0	△25.0	20.0	0.0	△60.0	0.0	△20.0	0.0
収 益	△20.0	△75.0	△25.0	0.0	△20.0	△60.0	0.0	△20.0	20.0
資金繰り	0.0	△25.0	△25.0	0.0	0.0	△20.0	0.0	△20.0	0.0
人 手	△20.0	0.0	△25.0	0.0	△40.0	20.0	0.0	0.0	0.0
設 備	△20.0	△25.0	0.0	0.0	△20.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
輸入製品との競争の激化	26.7%	提携先を見つける	33.3%
売上の停滞・減少	26.7%	経費を節減する	20.0%
原材料高	13.3%	販路を広げる	20.0%

能登地区の電子部品・半導体製造業



【概 況】

今期（R 3.10月～12月）業況D.I.については33.3と悪化した。

世界的な半導体需要の高まりに対し、需給は未だに改善しておらず、半導体を使用した製品全体の製造遅れ、または停止している状況は変わっていない。国外の製造拠点を見直し、国内で完結するサプライチェーンや、流通ルートの見直しと確立が求められているが、短期間での修正は難しく、長期的に取り組むことになるとみられる。

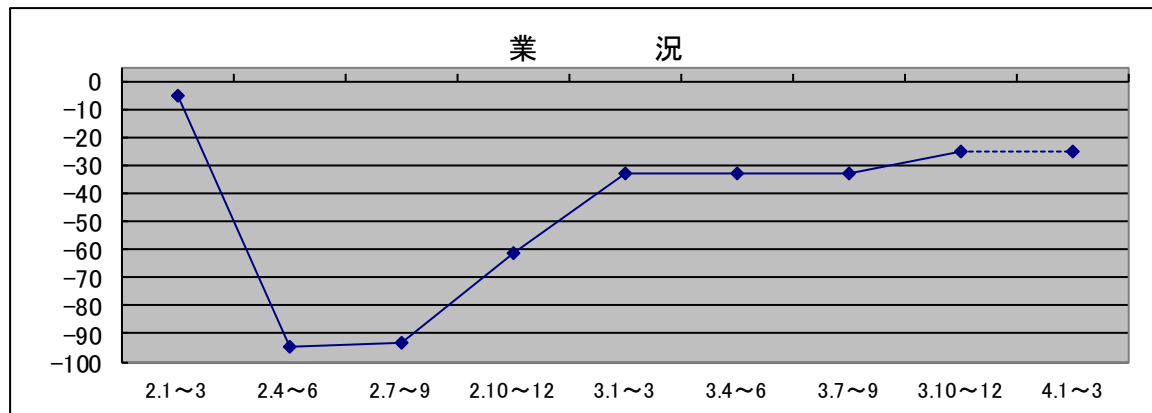
来期（R 4.1月～3月）は、業況D.I.と資金繰り、人手と設備については横這い、売上は悪化を予測、収益については単価の上昇による改善を予想している。昨年同時期は次期改善していたが、今年は今期の悪化が尾を引く予想となっており、引き続き今後の動向について注視が必要である。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年				令和3年				見通し
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
業 況	50.0	△20.0	0.0	0.0	△25.0	0.0	0.0	△33.3	△33.3
売 上	50.0	△20.0	0.0	40.0	△25.0	△50.0	0.0	0.0	△33.3
収 益	50.0	△40.0	0.0	40.0	△25.0	50.0	0.0	△66.7	△33.3
資金繰り	0.0	△40.0	△33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	△33.3	△33.3
人 手	△50.0	△20.0	0.0	△20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
設 備	0.0	0.0	△33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	14.3%	提携先を見つける	37.5%
原材料高	14.3%	経費を節減する	37.5%
人件費の増加	14.3%	情報力を強化する	12.5%

能登地区の漆器業



【概 況】

今期業況D.I.はコロナ第五波が沈静化したことにより、△25.0（前期△33.3）と改善。しかし依然海外観光客の入国制限が続いており、コロナ禍以前の水準まで持ち直しておらず、厳しい業況が続いている。

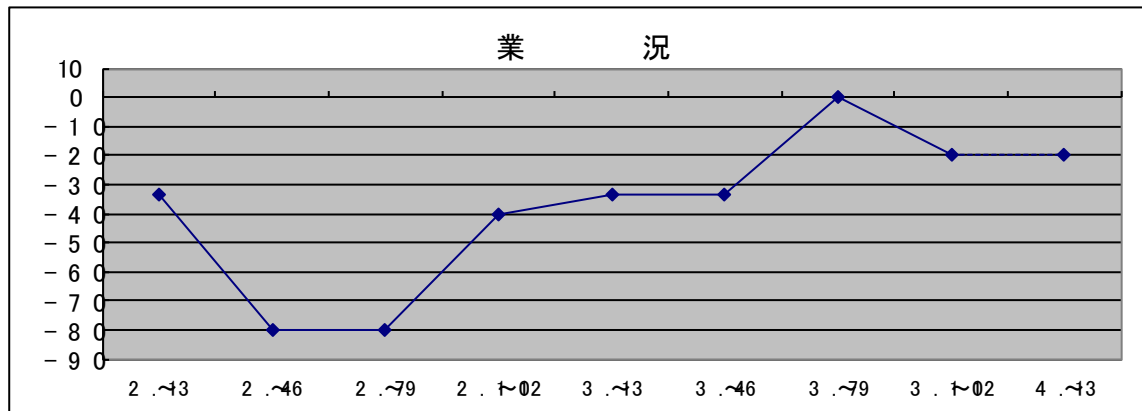
来期（R 4.1月～3月）はコロナ第六波が発生するか分からず、また発生した場合どの程度影響が出てくるか分からない状況であり、年明けで人流が落ち着く時期であることから売り上げの悪化を予想、他すべての項目が横這いで推移すると慎重な予想をしている。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年				令和3年				見通し
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
業 況	△5.6	△94.4	△93.3	△61.1	△33.3	△33.3	△33.3	△25.0	△25.0
売 上	△5.6	△88.9	△46.7	△33.3	△33.3	△44.4	△33.3	△6.2	△12.5
収 益	△5.6	△88.9	△53.3	△33.3	△33.3	△38.9	△27.8	△12.5	△12.5
資金繰り	△11.1	△61.1	△20.0	△38.9	△22.2	△16.7	△27.8	△25.0	△25.0
人 手	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6	6.2	6.2
設 備	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
地場産業の衰退	23.3%	提携先を見つける	35.0%
輸入製品との競争の激化	16.7%	販路を広げる	20.0%
売上の停滞・減少	13.3%	経費を節減する	15.0%

能登地区の木材業



【概 況】

今期（R 3.1 0月～1 2月）業況D.I.は△20.0と前回の0.0に比べ悪化した。業況・売上・収益はともに前期比較で悪化しており、木材価格高騰が影響している。経営上の問題点では前回挙げた「輸入製品との競争の激化」が輸入材の価格高騰により上位から消え、代わりに「取扱商品の陳腐化」が入った。来期売上・収益は改善する見込みであるが、業況D.I.は横這いと予想している。

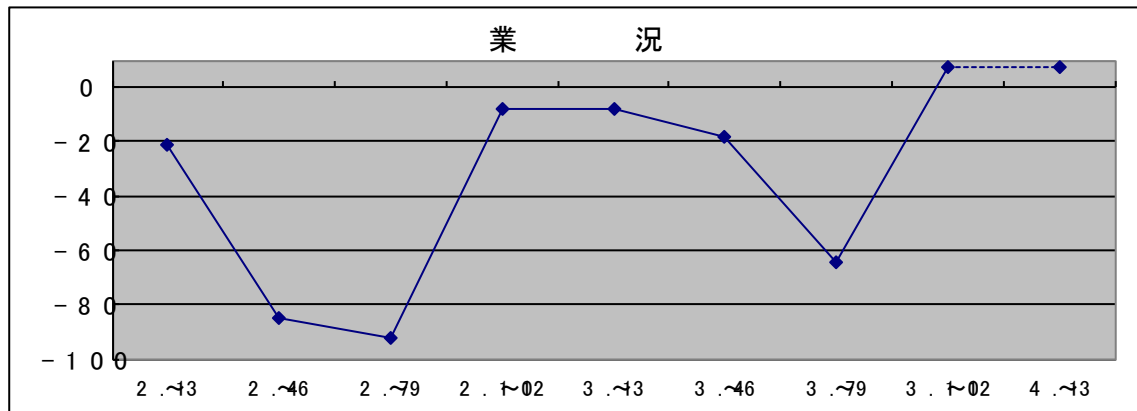
三カ月毎に見直される輸入材価格は高価格帯を維持していることから、通常であれば1 2月から梅雨時期まで木材価格は概ね下がる傾向にあるが、例年通りに動くことも考えやすく、動向を注視する必要がある。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年				令和3年				見通し
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
業 況	△33.3	△80.0	△80.0	△40.0	△33.3	△33.3	0.0	△20.0	△20.0
売 上	△33.3	△80.0	△80.0	△40.0	△50.0	△50.0	△40.0	△60.0	△40.0
収 益	△33.3	△80.0	△80.0	△40.0	△50.0	△50.0	△20.0	△60.0	△40.0
資金繰り	△16.7	△60.0	△20.0	△40.0	△33.3	△16.7	△20.0	△20.0	△20.0
人 手	0.0	△20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
設 備	△16.7	△50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	16.7%	提携先を見つける	30.8%
合理化の不足	16.7%	販路を広げる	15.4%
取扱商品の陳腐化	16.7%	経費を節減する	15.4%

能登地区の建具業



【概 況】

コロナ禍以前から続く建具業界の不景気がコロナの影響で悪化し、前期は景気改善の実感がまだ無く、悪化の回答が多かったが、今期は改善を実感できたとの回答が多くなり業況D.I.は7.1と大幅に改善、売上・収益も同様に改善を示すも、資金繰り・人手は悪化した。来期（R4.1月～3月）の予測数値は売上以外が横這いか改善で、概ね現状維持との見通しをしている。

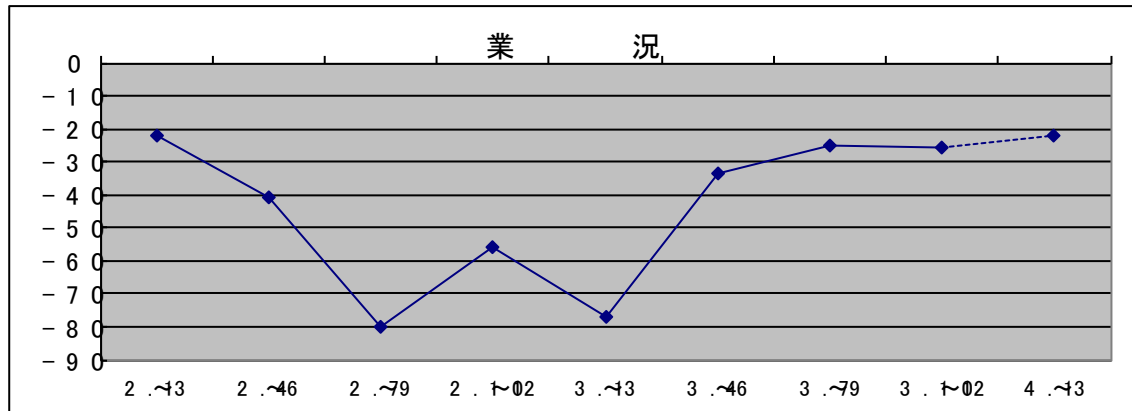
経営上の問題点として前回一位であった「売上の停滞・減少」、が消え、「利幅の縮小」と「人件費の増加」が36.4%と他の回答に比べて比率が高く、利益を出すために何をすることが課題となっている。当面の重点施策は「提携先を見つける」、「販路を広げる」との回答が多く、同業者間の競争も更に激化していくと思われる。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年				令和3年				見通し
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
業況	△21.4	△84.6	△92.3	△7.7	△7.7	△18.2	△64.3	7.1	7.1
売上	△21.4	△84.6	△7.7	0.0	0.0	△9.1	△50.0	7.1	0.0
収益	△21.4	△84.6	△7.7	0.0	0.0	△27.3	△42.9	7.1	7.1
資金繰り	0.0	△76.9	△7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	△7.1	△7.1
人手	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△14.3	△7.1
設備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	36.4%	提携先を見つける	26.1%
人件費の増加	36.4%	販路を広げる	21.7%
同業者間の競争の激化	21.2%	経費を節減する	4.3%

能登地区の織布業



【概 況】

今期（R 3.1 0月～1 2月）業況D.I.は△25.9（前期△25.0）とやや悪化を示した。今期は全体的に悪化しており、売上・収益・資金繰りが大きく下がった。

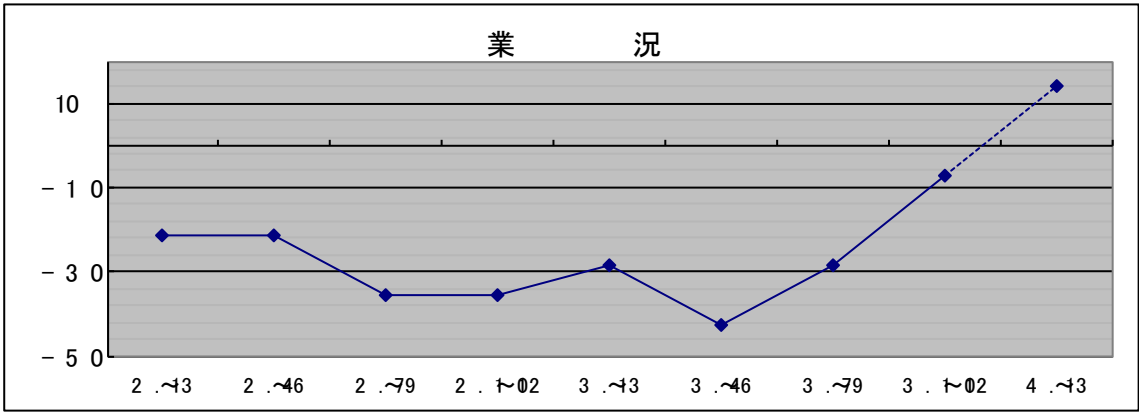
来期（R 4.1 月～3 月）は売上・収益が改善し、業況D.I.はやや改善する見込み。特殊な製品である車のタイミングベルトの裏地などはコロナウイルスの影響をあまり受けてはいないが、自動車製造自体が生産調整や生産停止しており、先行きは不透明である。織布業界全体として状況は芳しくなく、更なる業況改善のために打開策が必要である。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年				令和3年				見通し
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
業 況	△22.2	△40.7	△80.0	△55.6	△76.9	△33.3	△25.0	△25.9	△22.2
売 上	△22.2	△48.1	△64.0	△29.6	△65.1	△29.6	△10.7	△29.6	△14.8
収 益	△18.5	△48.1	△60.0	△29.6	△69.2	△25.9	△3.6	△29.6	△14.8
資金繰り	△11.1	△22.2	△24.0	△14.8	△11.5	△14.8	0.0	△14.8	△14.8
人 手	△11.1	0.0	0.0	△7.4	7.7	△3.7	0.0	△3.7	△3.7
設 備	△7.4	△7.4	△4.0	3.7	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	22.1%	提携先を見つける	41.0%
同業者間の競争の激化	20.6%	販路を広げる	21.7%
人件費の増加	17.6%	経費を節減する	21.7%

能登地区の繊維・雑品業



【概況】

今期（R 3.10月～12月）業況D.I.は△7.1と改善を示し、売上と収益は大幅に改善、人手と設備は横這いで、資金繰りはやや悪化した。

歳暮の時期であったことから、ギフトのラッピングに使用されるゴム入り組紐等の季節需要により全体的に上向いたと考えられる。

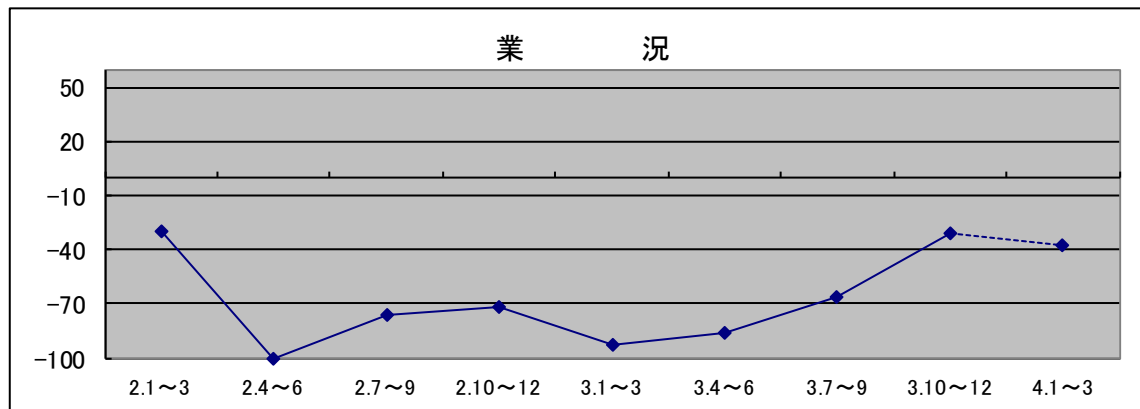
来期（R 4.1月～3月）の業況D.I.については14.3と引き続き改善を予想。前々期を底として徐々に改善しており、来期は売上・収益についても改善、他の項目については横這いを予想、回復基調が保たれるとみている。

	令和2年				令和3年				見通し
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
業況	△21.4	△21.4	△35.7	△35.7	△28.6	△42.9	△28.6	△7.1	14.3
売上	△28.6	△21.4	△21.4	△21.4	△21.4	△42.9	△28.6	14.3	21.4
収益	△21.4	△21.4	△21.4	△21.4	△21.4	△42.9	△28.6	14.3	21.4
資金繰り	△7.1	△7.1	△14.3	0.0	△14.3	0.0	0.0	△7.1	△7.1
人手	0.0	7.1	0.0	0.0	△21.4	0.0	0.0	0.0	0.0
設備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《業績判断D.I.の推移》

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	100.0%	提携先を見つける	48.7%
輸入製品との競争の激化	90.9%	販路を広げる	30.8%
大手企業との競争の激化	54.5%	経費を節減する	17.9%

能登地区の観光業



【概 況】

今期（R 3.1 0月～1 2月）業況D.I.は、前期（R 3.6月～9月）の△66.7から△31.2と大幅に改善した。

コロナウイルス第五波の沈静化によって人流が増え、それにより売上・収益は大きく改善し、資金繰りも改善した。料金価格と設備についてのみ悪化した。来期は冬の時期で人の流れが多少減ることから、業況D.I.は△37.5とやや悪化を予想しているが、他の項目については改善か横這いの見通し。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年				令和3年				見通し
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	△29.4	△100.0	△76.5	△71.4	△92.9	△85.7	△66.7	△31.2	△37.5
売 上	△35.3	△100.0	△11.8	△57.1	△92.9	△78.6	△40.0	0.0	0.0
収 益	△35.3	△100.0	△11.8	△57.1	△92.9	△78.6	△40.0	△12.5	△6.2
料金価格	5.9	△13.3	5.9	△14.3	△14.3	0.0	6.7	0.0	6.2
資金繰り	△35.3	△73.3	△29.4	△28.6	△50.0	△42.9	△33.3	△18.8	△18.8
設 備	△11.8	6.7	△5.9	△7.1	13.3	△7.1	△6.7	△12.5	△6.2

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	29.5%	経費を節減する	22.7%
売上の停滞・減少	22.7%	提携先を見つける	20.5%
商圈人口の減少	11.4%	宣伝・広告を強化する	15.9%

主要経済指標

◆ 労働

(時間)

	有効求人倍率 (季節調整値)	実質労働時間	
			うち所定外
2年 1月	1.73	134.4	8.2
2年 2月	1.70	142.8	9.0
2年 3月	1.59	143.2	9.3
2年 4月	1.46	143.8	8.2
2年 5月	1.32	124.7	5.8
2年 6月	1.19	140.0	6.2
2年 7月	1.15	142.0	7.2
2年 8月	1.10	132.0	7.3
2年 9月	1.09	139.5	7.7
2年 10月	1.12	142.8	7.8
2年 11月	1.18	142.4	8.4
2年 12月	1.23	141.9	8.7
3年 1月	1.22	127.9	7.4
3年 2月	1.26	132.8	8.1
3年 3月	1.27	138.8	8.6
3年 4月	1.35	143.7	8.3
3年 5月	1.36	129.2	7.5
3年 6月	1.38	141.4	8.0
3年 7月	1.35	141.5	8.5
3年 8月	1.36	131.7	7.9
3年 9月	1.40	137.0	8.4
3年 10月	1.40	141.3	8.7

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 消費者物価指数

※平成28年より2015年(平成27年)を100としています。

	総合	前年同月比
2年 1月	103.0	0.9
2年 2月	102.6	0.7
2年 3月	102.7	0.2
2年 4月	102.5	-0.4
2年 5月	102.7	-0.2
2年 6月	102.7	0.3
2年 7月	102.6	0.3
2年 8月	102.6	-0.2
2年 9月	102.2	-0.4
2年 10月	102.6	-0.7
2年 11月	102.2	-1.0
2年 12月	102.0	-1.1
3年 1月	102.6	-0.4
3年 2月	102.5	-0.1
3年 3月	102.8	0.1
3年 4月	102.4	-0.1
3年 5月	102.7	0.0
3年 6月	102.8	0.1
3年 7月	99.8	-0.2
3年 8月	99.9	0.1
3年 9月	100.2	0.7
3年 10月	100.2	0.3
3年 11月	100.1	0.6

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 信用保証

(百万円)

	保証承諾		保証債務	
	件数	金額	件数	金額
2年 4月	819	17,705	13,801	112,928
2年 5月	1,308	24,918	14,410	127,514
2年 6月	2,432	39,481	15,797	158,744
2年 7月	3,047	60,623	17,670	197,906
2年 8月	1,697	31,987	19,261	234,113
2年 9月	995	16,859	20,150	254,510
2年 10月	818	11,511	20,735	266,133
2年 11月	735	10,759	21,137	273,184
2年 12月	913	11,887	21,709	282,686
3年 1月	420	4,714	22,087	287,516
3年 2月	638	10,395	22,292	290,467
3年 3月	1,724	33,452	22,781	300,923
3年 4月	820	15,623	23,341	313,128
3年 5月	245	2,328	23,410	314,911
3年 6月	270	1,983	23,401	314,354
3年 7月	246	1,910	23,385	313,433
3年 8月	264	2,077	23,386	312,444
3年 9月	294	2,281	23,390	312,173
3年 10月	271	2,637	23,423	312,011
3年 11月	257	1,849	23,441	311,752

資料: 石川県信用保証協会

◆ 企業倒産件数

(百万円)

	件数	金額
2年 3月	4	198
2年 4月	5	471
2年 5月	4	1,635
2年 6月	7	644
2年 7月	10	1,210
2年 8月	3	718
2年 9月	3	89
2年 10月	4	367
2年 11月	6	707
2年 12月	6	413
3年 1月	2	170
3年 2月	4	385
3年 3月	4	3,836
3年 4月	6	509
3年 5月	10	724
3年 6月	7	1,360
3年 7月	4	62
3年 8月	3	204
3年 9月	3	166
3年 10月	7	6,514
3年 11月	4	640

資料: (株)東京商工リサーチ

主要経済指標

◆ 建築着工

(千㎡、百万円)

	建築着工総数		うち住宅着工	
	床面積	工事予定額	戸数(戸)	床面積
1年 12月	98	27,393	552	50
2年 1月	76	13,352	456	44
2年 2月	75	16,474	399	36
2年 3月	194	37,337	605	59
2年 4月	95	18,693	569	56
2年 5月	96	20,476	456	47
2年 6月	118	26,738	647	58
2年 7月	78	15,148	710	57
2年 8月	109	22,003	728	62
2年 9月	72	14,607	531	45
2年 10月	82	15,291	504	50
2年 11月	96	19,358	672	61
2年 12月	80	16,045	590	54
3年 1月	51	12,277	310	31
3年 2月	163	23,961	465	45
3年 3月	103	24,047	567	55
3年 4月	113	21,857	614	58
3年 5月	102	20,202	571	58
3年 6月	118	22,791	718	65
3年 7月	88	16,623	619	60
3年 8月	76	15,385	789	62
3年 9月	108	19,928	638	57
3年 10月	89	18,306	587	60

資料:国土交通省(石川県内)

◆ 公共工事請負金額

(件、百万円)

	件数	請負金額
1年 12月	337	6,335
2年 1月	271	6,562
2年 2月	224	7,833
2年 3月	124	3,595
2年 4月	565	45,139
2年 5月	372	20,575
2年 6月	574	17,880
2年 7月	637	17,721
2年 8月	505	11,694
2年 9月	553	14,120
2年 10月	546	12,814
2年 11月	345	6,843
2年 12月	299	7,262
3年 1月	211	5,262
3年 2月	152	3,599
3年 3月	127	7,066
3年 4月	509	37,997
3年 5月	389	22,743
3年 6月	584	22,503
3年 7月	664	15,495
3年 8月	471	11,897
3年 9月	537	15,581
3年 10月	458	8,538
3年 11月	402	9,874

◆ 新車登録台数

(台)

	普通自動車	軽自動車
1年 12月	2,412	1,201
2年 1月	2,199	1,338
2年 2月	3,132	1,818
2年 3月	4,963	2,601
2年 4月	1,657	941
2年 5月	1,611	713
2年 6月	2,244	1,465
2年 7月	2,649	1,690
2年 8月	1,918	1,383
2年 9月	3,048	1,881
2年 10月	2,661	1,581
2年 11月	2,514	1,640
2年 12月	2,339	1,383
3年 1月	2,250	1,326
3年 2月	2,705	1,740
3年 3月	5,105	3,008
3年 4月	2,245	1,506
3年 5月	2,142	1,287
3年 6月	2,472	1,509
3年 7月	2,837	1,439
3年 8月	2,296	1,193
3年 9月	2,105	1,175
3年 10月	2,035	1,107
3年 11月	2,544	1,448

資料:石川県自動車販売店協会

◆ 温泉地宿泊数

(人)

	和倉温泉	輪島温泉
2年 1月	53,477	8,800
2年 2月	53,368	10,400
2年 3月	33,444	6,600
2年 4月	5,366	1,300
2年 5月	267	2,400
2年 6月	12,897	5,300
2年 7月	46,678	9,800
2年 8月	55,528	13,700
2年 9月	40,084	11,200
2年 10月	52,385	14,300
2年 11月	64,437	16,500
2年 12月	49,849	10,000
3年 1月	10,858	3,600
3年 2月	10,622	4,000
3年 3月	32,937	6,600
3年 4月	23,814	8,300
3年 5月	17,150	7,300
3年 6月	11,290	4,800
3年 7月	35,443	10,700
3年 8月	43,264	10,400
3年 9月	21,952	7,100
3年 10月	40,773	11,400
3年 11月	59,850	15,400

資料:北陸観光協会、和倉温泉観光協会
輪島市観光協会

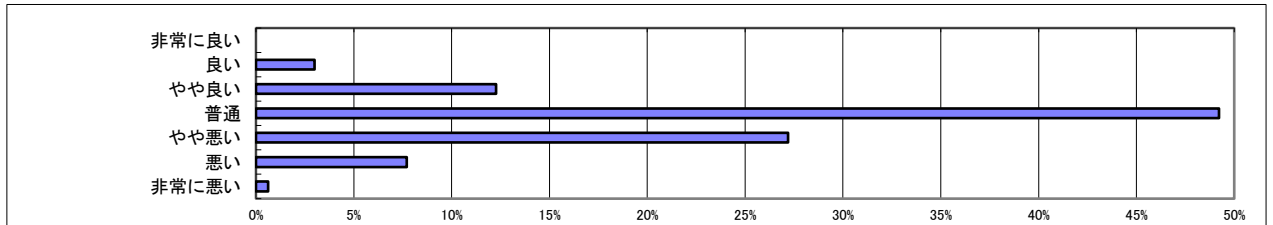
◆ 織物生産高

(千㎡)

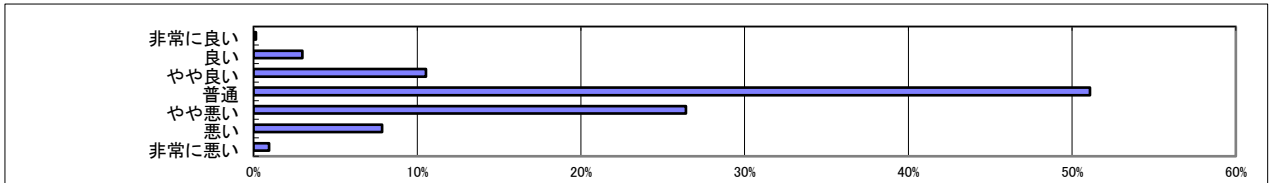
	合計
1年 12月	21,202
2年 1月	19,145
2年 2月	21,066
2年 3月	20,459
2年 4月	19,164
2年 5月	16,954
2年 6月	18,402
2年 7月	17,382
2年 8月	12,208
2年 9月	13,612
2年 10月	15,859
2年 11月	15,282
2年 12月	14,852
3年 1月	15,143
3年 2月	16,191
3年 3月	16,905
3年 4月	17,276
3年 5月	16,199
3年 6月	19,475
3年 7月	19,071
3年 8月	16,987
3年 9月	20,266
3年 10月	21,090

資料:石川県企画開発

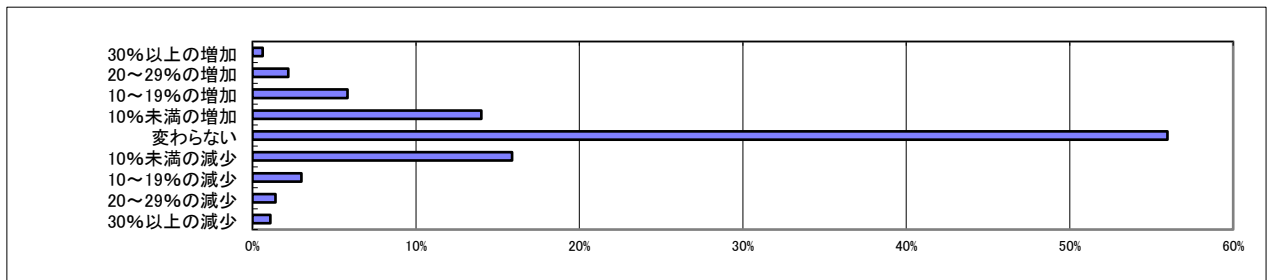
問1. 貴社では、2022年の日本の景気をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。



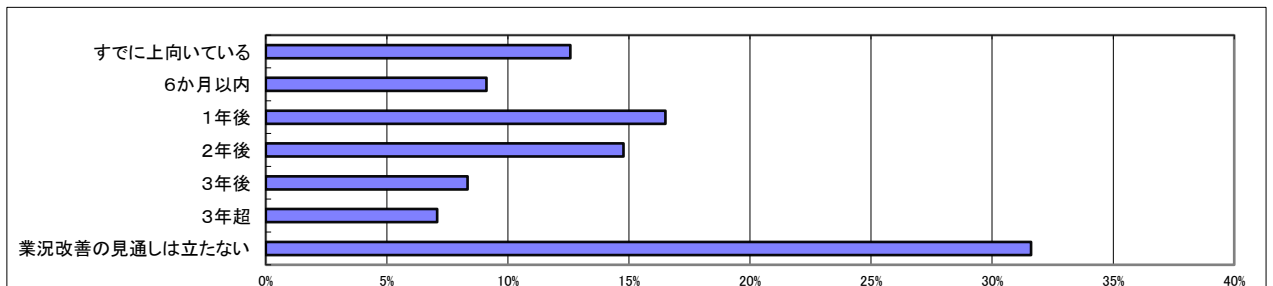
問2. 貴社では、2022年の自社の業況（景気）をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答え下さい。



問3. 2022年において貴社の売上額の伸び率は、2021年に比べておおよそどのようになると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。



問4. 貴社では、自社の業況が上向く転換点をいつ頃になると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。



問5. 様々な分野で原材料・仕入価格の上昇が経営上の問題となっていますが、貴社ではどのような対応を取っていますか。上昇分を販売価格に転嫁できている方や、そもそも原材料・仕入価格が上がっていないという方は1を、また、価格転嫁できていない方は仕入（調達）各上昇への対応について2～0の中から最大3つまで選んでお答えください。

